1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101652			
法人名	社会福祉法人 明恵会			
事業所名	グループホームふれあい			
所在地 〒030-0915 青森市小柳1丁目17-17				
自己評価作成日	平成28年11月25日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

ERITE INITIALIZATION OF THE INITIALIZATION O					
	評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会			
	所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階			
	訪問調査日	平成28年12月12日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある「笑顔」と「優しさ」をモットーに利用者様に接しています。行事等を通して利用者様と職員 が一緒に楽しめるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

一昨年2ユニットとし新たな職員も配属され、その後地域に根差した運営に取り組んでいる。地域住民との関わりについて、職員が意見を出し合い、利用者にとって住み良い環境を作れるよう検討している。又、職員の育成に関して職場外研修の周知や、定期的な職場研修などにおいて、スキルの向上並びに理念の周知に努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに○印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の 1. ほぼ全ての家族と 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 2. 家族の2/3くらいと 2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 56 を掴んでいる 3. 利用者の1/3くらいの ている 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9.10.19) 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 57 がある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 1. 大いに増えている 2. 利用者の2/3くらいが 係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事 2. 少しずつ増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) 3. 利用者の1/3くらいが 業所の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない (参考項目:4) 4. ほとんどいない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした 2. 利用者の2/3くらいが 職員は、活き活きと働けている 2. 職員の2/3くらいが 59 表情や姿がみられている 66 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 60 る 67 足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスに 2. 利用者の2/3くらいが |2. 家族等の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おおむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない 1. ほぼ全ての利用者が

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自	外	万 日	自己評価	外部評価	西
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.Đ	里念(こ基づく運営			
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	理念を毎朝の申し送り時に唱和し合い、毎日の実践・職員の意識づけに繋げています。	理念は職員からの意見を基に皆で作り、ユニットの壁に掲示して毎日朝礼時に唱和しながら意識づけを図っている。また、職場内研修でもその都度理念を確認し、周知に努めている。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	郵便局まで利用者と一緒に行ったり、盆踊り祭り(法人の敷地)や隣の神社の宵宮に参加しています。	町内のゴミ拾いに参加したり、近所の神社の 宵宮へ出掛けている。今年度より町内の盆 踊りをグループホームの敷地で行い、地域 住民とふれあう機会を確保し、積極的に交 流を深めている。	一昨年2ユニット体制となり、職員教育へ重点をおいていたため、地域との交流が限られていたが、今年度より町内会と協力し盆踊りを一緒に企画するなど、新たな取り組みを始めており、これからの活動に期待したい。
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	運営推進会議を通して認知症について理 解してもらえるように伝えています。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	暮らしを写真で紹介しています。盆踊りの時	地区会長をはじめ民生委員や地域包括支援 センター、家族の代表も交えながら定期的な 運営推進会議を開催し、日々の利用者の状 況を報告することで助言を得ながら運営に 繋げている。	
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等は直接青森市に出向き指導を受けるようにしています。	日々行政との連携を図り、今年度からは地域包括支援センターの支援を受け、隔月開催で近隣のグループホームとの情報交換や相談、助言を受けられる体制作りに取り組んでいる。	
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月職場内研修にテーマとしてあげ学習し、 安心できる生活ができるように努め、身体 拘束をしないケアに繋げています。玄関の 施錠を行わず見守りをしています。	身体拘束については、職場内研修を実施している。日々のケアの中で職員同士で確認し合いながら支援を行っている。玄関の施錠も夜間のみ実施している。	
7			7月の職場内研修会で高齢者虐待防止法 について学び事業所内で虐待が見過ごさ れることがないように注意を払っています。		

自己	外		自己評価	外部評価	т
己	部	块 口 ————————————————————————————————————	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう 支援している	今年度は、権利擁護に関する研修会は予 定に入りませんでしたが、今後計画に入れ る予定です。現在後見人制度を利用してい るケースはありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時に補足しながら説明をおこなっています。不安な事等には、特に丁寧に説明しております。		
10		びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている		利用者からは日々の様々な場面で意見を伺いケアに反映されるように努めている。家族からは面会時や行事等で来所された時に、その都度意見を伺いながら運営に反映させている。	
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	介護主任が現場の声を吸い上げ、管理者 から代表者に伝え、働きやすい環境づくり に努めています。	職員間で情報を共有できるよう連絡ノートに 記載し、その内容について周知対応する体 制がとられている。又、その都度介護主任が 職員より意見を聞きながら、管理者に伝え運 営に反映させている。	られるが、一方向の情報伝達だけで とどまらぬ様、定期的に職場全体で
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	代表者は現場の声に耳を傾け、一緒に考えてくれます。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、、職場内・外の研修参加等理解 し支持してくれています。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	今年度より、2か月に一回の割合で圏域内 のグループホームの意見交換の場である 交流会を行うことの取り組みを理解してくれ ている。		

自	外	75 D	自己評価	外部評価	5
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .5	足心と	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15			本人がI困っていることや不安に思っていること等を言葉や表情・態度で察し、本人が安心できる関係づくりに努めています。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、関係づくりに努めている	管理者は、語かぞ買うと直接話をしながら 困っていることや不安・要望等を聞き入れ、 誠意をもって対応し関係づくりに努めていま す。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいることや必要として いることを見極め、それに合ったサービスや 方法を提案しながら納得して頂けるように つとめています。		
18		ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人・利用者同士が協力し合って 一緒に家族同様の生活ができるように支援 しています。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置か ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時家族等家族と話す機会 や一緒に過ごす時間を多く作り、本人の希 望を等叶えるために協力をお願いしても らっています。		
20	(8)	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、家族の協力をお願いしながら お気に入りの美容院に行ったり墓参りに 行ったりとしています。	利用者の希望により、家族や友人への連絡を支援するなど、馴染みの関係が続く取り組みがされている。また、同敷地内のデイサービスセンターに訪問があった時には、グループホームの利用者も参加し、知人や地域の人たちとの交流が図られている。	
21			職員は、利用者同士の関係を把握し、お互いが助け合える場面の提供、仲介等、より よい関係が築けるように支援に努めていま す。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	T
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		の栓逈をノオローし、柏談や又抜に劣めている	サービス利用終了時に、これからも相談や 支援に応じることを伝え、退所後も病院等 に面会に行ったり機会があれば連絡を取る ようにしています。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	-		
23		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人一人の思いを受け止めて暮らし方の希望、意向の把握に努めています。	利用者の思いや意向を日常の会話の内容からくみ取っている。また、両ユニットの利用者の意向等の把握が行えるよう、レクリエーション等でお互いのユニットを行き来し、情報の共有を図っている。	
24			入所時のアセスメントや本人・家族からの 情報を収集し、これまでの人生の経過を理 解するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送り時等で一人一人の過ごし方や心身 状態等の把握に努めています。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を確認しプランに反映させています。現状も把握し、それに合った介護計画を作成しています。	職員が利用者の日々の様子やプランに対する評価をノートに記載し、モニタリングに努めている。又、家族からは、面会時に意見や思いを確認し、ケアプランに反映している。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に健康状態や日々の生活状態 等を記録し、皆で共有して必要であれば計 画の見直しをしています。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な買い物や医療機関への受診、役 所への手続き、入退所時の送迎、。カラオ ケ教室の開催。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を通して地域の情報を得 て、活用できるものを選んでいます。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	本人や家族の希望するかかりつけ医の継 続のため送迎も行っています。	入居前からのかかりつけ医を継続的に受診できるよう支援されている。グループホームで受診の対応が難しい時は、送迎の支援をし、受診の付き添いは家族の協力を得ながら実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等 に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や 看護を受けられるように支援している	非常勤ですが、看護師が一人一人の健康 管理について相談し、支持を仰いでいま す。必要であれば受診に同行してくれ、適 切な看護が受けられるように支援していま す。		
32		院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換をし、当事業所の 看護師がパイプ役になっています。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んで いる	重度化した場合は家族とよく話し合って今後の方針を主治医と家族と一緒に考えていく姿勢を示しています。12月の職場内研修で「看取り」をテーマにする予定。	非常勤看護師の配置もあり、病気や薬等に対する疑問や不安を相談できる環境ができている。看取りを希望される方も多く、関係 医療機関にも日常の医療相談、及び自然な形での看取りに対し、支援体制の確認を取っている。	看取りの体制はとられているが、看取りの事例はないため、看取りを経験した職員が少なく、新人職員が多いため、重度化や看取りについてチームケアができる体制が築けることに期待したい。
34		い、夫政力を身に行けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアル 確認や申し送り時等で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時時は地域の方形協力してく れる体制があります。またより安全な法人 内のデイサービスの活用も視野にいれてい ます。	緊急時の連絡チャートを作成し、定期的な消防訓練なども実施され、災害時に必要な食材、物品を備蓄している。グループホームの関係者が地域消防団員でもあり、災害対策に対しての地域との協力体制もとられている。	

自	外	· 日	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その				
36	(14)	〇一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー を損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、優しい口調で話しかけるように心がけています。プライバシー(トイレや入浴時等)を損ねないよう対応に気を配っています。	個々の利用者に対し、プライバシーを損ねない様な声掛けを行い、排泄時の支援が行えている。又、入浴時にも浴室前にスクリーンを設置するなどの工夫がとられ、職員が利用者を尊重する姿勢が周知されている。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	本人が自分の希望を遠慮なく表現でいるような関係づくりに努め、小さなことでも自分で決められるような場面作りをなるべく多く作っています。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を念頭において、一人一人のペースに あわせた生活ができるように努めていま す。		
39			日常生活や外出時に着たい服、身に着けたいものなど本人が選んで決められるように支援しています。		
40	(15)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	メニューを紹介してもらったり、配膳や下膳 を役割として頂いたり、またお絞りたたみも お願いしたりしています。	利用者から食べたいものを聞き取り、担当職員がメニュー作りに努めている。できるだけ利用者が配膳・下膳並びに食材の下ごしらえ等が行えるよう、その人の能力に応じて食事に関われるよう工夫している。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	一人ひとりの体調と食事の摂取量を把握しています。水分補給が必要な方や食事制限のある方を職員が共有して支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。本人 ができないところは介助しています。		

自	外	75 D	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ー人一人の排泄パターンを把握し、日中は 布パンツと尿とりパット併用したり、時間でト イレ誘導しトイレでの排泄を促したりしてい ます。	排泄の失敗がない様に日々利用者の状態 観察に努め、トイレで自然に排泄が行えるように心掛けている。又、スムーズな排泄が行 えるように、ユニットでの体操や食事の工夫 に取り組んでいる。	
44		取組んでいる	職員は便秘が影響を及ぼす周辺症状を理解しており、乳酸菌の食品を取り入れたり、 運動をするように努めています。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回と曜日は決まっていますが、入浴剤の色の工夫やミカンやゆずを入れたり、アヒルのおもちゃを浮かべたりして楽しんでもらっています。	入浴剤の使用や時にはみかん風呂を行うなど、利用者に入浴を楽しんでもらえる工夫がされている。入浴出来なかった利用者に対しては、看護師の助言・指示のもと、清拭や部分浴などの支援が行われている。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中疲れて休息したい方の要望を取り入れたり、安眠できるように照明の明るさを本人の好みに合わせて工夫しています。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の作用等職員は理解しており、症状の変 化等は看護師に報告・相談しています。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が得意とする役割を担った頂いています。気分転換をするためにも本人と話をして、希望をかなえられるように努めています。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外出できるように行事に組み入れています。合同行事として全員がワ・ラッセや盆踊り、紅葉見学に行きました。	地域の催しものやドライブ等の外出行事、お 盆の時期には自宅に外泊するなど、近隣・ 家族も含めた外出支援がなされている。ま た、遠出ができない場合でも、敷地内での茶 話会や簡易プールで涼むなど、日常を楽し める工夫がされている。	

白	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を 所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、少額のお金を持っている方もいます。外出等で支払う場面を提供したいと考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	手紙を一緒に書いて投函する支援を行っています。電話をしたい方には事業所の電話を使用して話をして頂いています。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように共有スペースの光 や音の調整に配慮しています。冬場は足元 が暖かい床暖にしています。	居室前の廊下上部には天窓があり、リビングには 大きな窓が設置されており、心地よい眺めと採光 の配慮がされている。又、床暖房や各居室にはエ アコンも設置され、過ごしやすい室温が保たれて いる。ホール内には手作りの飾りがあり、季節を感 じられるよう支援されている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	利用者が楽しく団らんできるようにソファー や食席で自由に過ごして頂いています。親 しい人同士ゆっくり話がしたい時は椅子を 移動してスペースを作っています。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	持ち込みの制限はなく、馴染みのものを置 いてもらっています。	入居時に馴染みの物を持ち込んだり、自らが手がけた創作品を飾るなど、心地よく過ごせる居室作りに取り組んでいる。また、利用者の動きを妨げないように、家具や物の置き場所に配慮している。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	本人の状況に応じて、なるべく自分らしく生活が送れるような環境づくりに努めています。		